

# 涙と共に

---

シリーズ～詩編～

2015/4/19

# 詩編126篇

- 【都に上る歌】

- 120篇から134篇までの15の詩編には「都に上る歌」というタイトルが付されている
- 特別な時に歌われていた
  - 神殿内の婦人の庭から男子の庭へと上る15階段でレビ人が歌った歌
  - バビロンからエルサレムへの帰還者のために作られた歌
  - 三大祭の時にエルサレムに上る巡礼の歌

# 詩編126篇

【都に上る歌。】

主がシオンの捕われ人を  
連れ帰られると聞いてわ  
たしたちは夢を見ている  
人のようになつた。

そのときには、わたした  
ちの口に笑いが

舌に喜びの歌が満ちるで  
ある。い。い。の。よ。き。こ。は、  
国々も言ひいである。い。い。

「主はこの人々に、大きな  
業を成し遂げられた」と。

主よ、わたしたちのために  
大きな業を成し遂げてく  
ださい。わたしたちは喜び  
祝うでしよう。

主よ、ネゲブに川の流れを  
導くかのよう

にわたしたちの捕われ人を  
連れ帰ってください。

涙と共に種を蒔く人は  
喜びの歌と共に刈り入れ  
る。

種の袋を背負い、泣きな  
がら出て行った人は

束ねた穂を背負い

喜びの歌をうたいながら  
帰ってくる。

# バビロン捕囚からの解放

- 国を追われたイスラエル
  - 主との契約を破り、信仰の純粹さを失ったイスラエルは、紀元前6世紀にバビロンに破れ、民はバビロンに連れて行かれた(42篇)
- 701年、ペルシャがバビロンを征服し、捕囚民を解放した
  - 「主がシオンの捕われ人を連れ帰られると聞いて／わたしたちは夢を見ている人のようになった」

# 解放の喜び

- 「口に笑いが」「舌に喜びの歌が」
  - 自然に湧き上がる喜び
- 主の名の復権に安堵する
  - 敵に「おまえたちの神はどこにいる？」と言われていた
  - 自分たちのことよりも、主の名が讃えられることを喜ぶ

そのときには、わたしたちの口に笑いが舌に喜びの歌が満ちるのである。そのときには、国々も言いつであらう。「主はこの人々に、大きな業を成し遂げられた」と。

# 更なる奇跡を望む

- 「大きな業を成し遂げ」て下さるのは主である
  - 自分の力に頼らず、主に期待する姿勢
- 困難であればあるほど、喜びは大きい
  - 「ネゲブ」は砂漠地帯!
  - 川が流れるとしたら奇跡

主よ、わたししたたちのために大きな業を成し遂げてください。わたししたたちは喜び祝うでしよう。

主よ、ネゲブに川の流れを導くかのようになし、わたししたたちの捕われ人を連れ帰ってください。

# 種まきと刈り入れ

- 「涙と共に種を蒔く」「種の袋を背負い、泣きながら…」
  - 収穫を望み、食べる分を削って種を蒔く
  - 次の収穫がなければ飢えてしまうかもしれない
- 「喜びの歌と共に刈り入れる」
  - 種まきが苦しかった分、収穫の喜びは大きい

涙と共に種を蒔く人は  
喜びの歌と共に刈り入れる。  
種の袋を背負い、泣きながら出て行っ  
た人は／束ねた穂を背負い  
喜びの歌をうたいながら帰ってくる。



# 涙と共に働いた人々

- 帰還は始まったが…
  - まだまだ課題が山積みだった
- エズラの涙＜民の不品行＞
  - 「エズラは神殿の前で祈り、涙ながらに罪を告白し、身を伏せていた。」エズラ10:1
- ネヘミヤの涙＜壊れた城壁＞
  - 「これを聞いて、わたしは座り込んで泣き、幾日も嘆き…」ネヘ1:4

涙と共に種を蒔く人は  
喜びの歌と共に刈り入れる。  
種の袋を背負い、泣きながら出て行っ  
た人は／束ねた穂を背負い  
喜びの歌をうたいながら帰ってくる。

# 信仰の種まき(投資)

- ただひたすら願っているだけではダメ!
  - 待っていても何も始まらない
- 雨(神の御業)を信じて、信仰の投資をする
  - 貧しいやもめの献金
    - 「皆は有り余る中から入れたが、この人は、乏しい中から自分の持っている物をすべて、生活費を全部入れたからである。」マルコ12:44
  - 進んで行う奉仕
    - 「わたしは証しますが、彼らは力に応じて、また力以上に、自分から進んで、聖なる者たちを助けるための慈善の業と奉仕に参加させてほしいと、しきりにわたしたちに願い出たのでした。」コリント二8:3-4

たゆまず善を行いましよ  
う。飽きずに励んでいれ  
ば、時が来て、実を刈り  
取ることにあります。

ガラテヤ6・9

兄弟たち、主が来られる  
ときまで忍耐しなさい。

農夫は、秋の雨と春の雨  
が降るまで忍耐しながら、  
大地の尊い実りを待つので  
す。

ヤコブ5・7

涙と共に種を蒔く人は  
喜びの歌と共に刈り入  
れる。

種の袋を背負い、泣き  
ながら出て行った人は  
束ねた穂を背負い  
喜びの歌をうたいなが  
ら帰ってくる。